

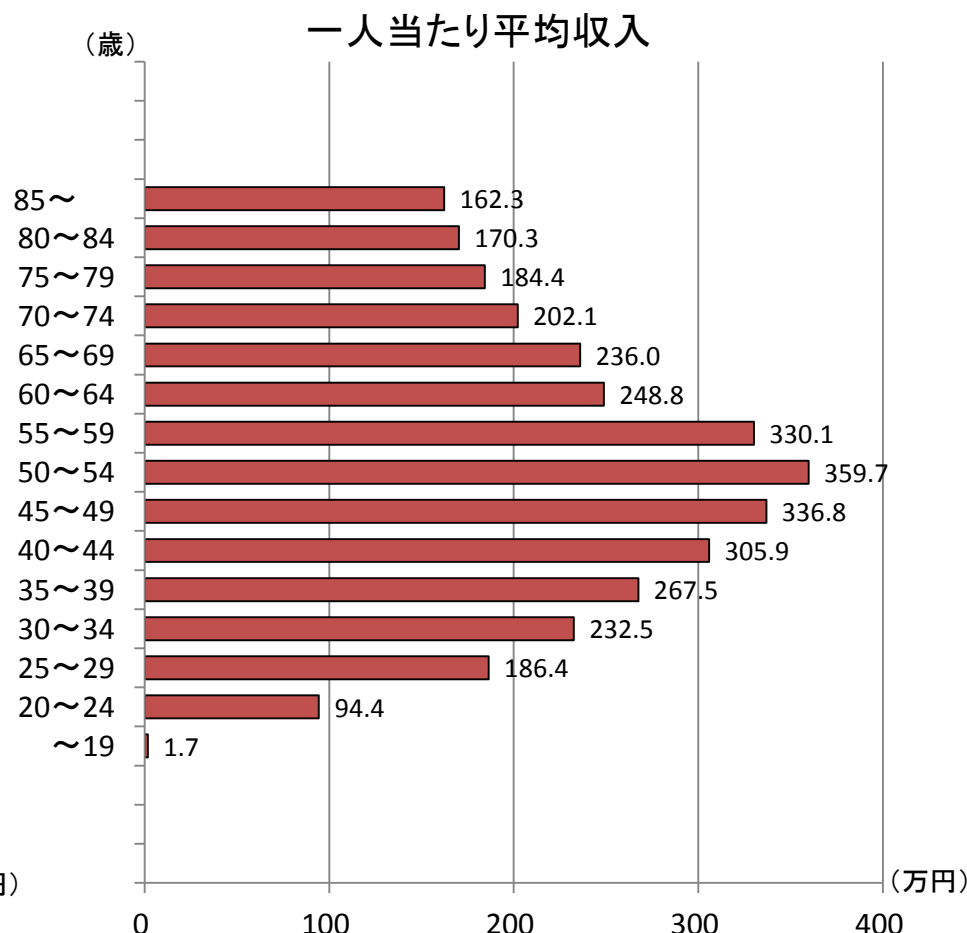
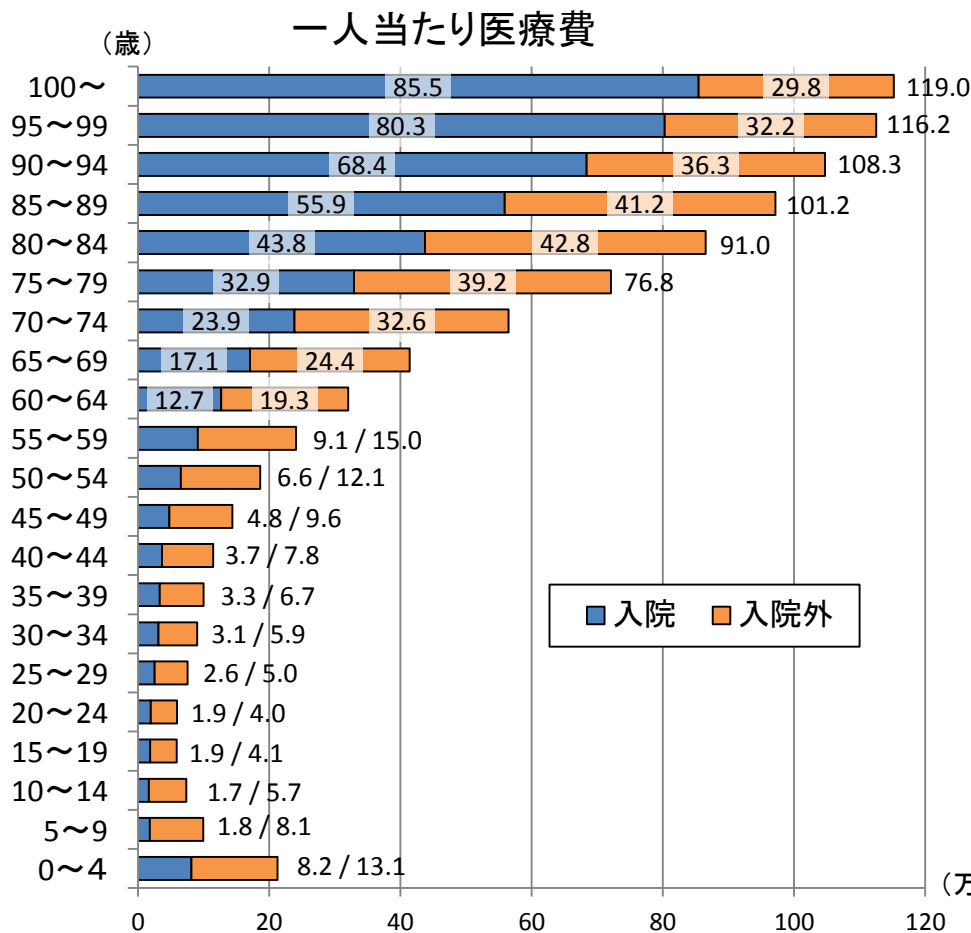
年齢階級別、病床種類別の 推計入院患者数等について

(前回部会における宿題事項)

年齢階級別の1人当たり医療費及び平均収入について

第96回社会保障審議会医療保険部会
(平成28年7月14日)資料2より抜粋

- 一人当たり医療費は高齢になるほど上昇し、70歳代までは入院外の割合が高いが、80歳代以降は入院の割合が高い。
- 75歳以上で国民医療費の約35%を占める。
- 一方で、一人当たり平均収入は50～54歳をピークに、高齢になるほど減少。



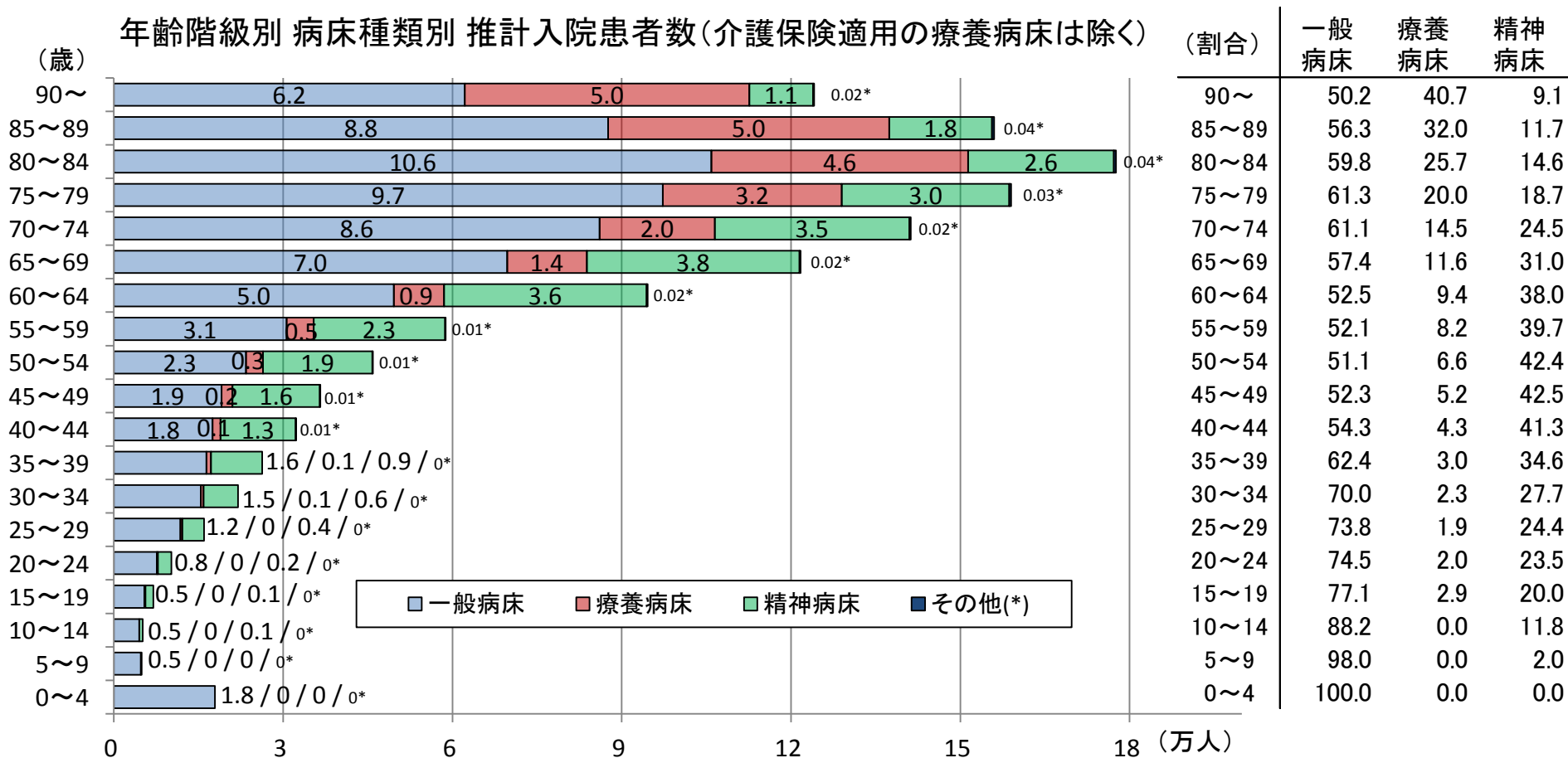
※ 一人当たり医療費は平成26年医療保険に関する基礎資料(厚生労働省保険局)による平成24年度の数値。

※ 一人当たり平均収入額は、平成25年国民生活基礎調査(抽出調査)による平成24年の数値。

※ 入院は、診療費及び食事療養・生活療養費(医科)の費用額。外来は、診療費及び調剤の費用額。歯科診療費や訪問看護等を含まないため、合計額とは一致しない。

年齢階級別、病床種類別の推計入院患者数について

- 年齢階級別の推計入院患者数は80～84歳がピークとなり、85歳以上になると減少となる。
- 80～84歳では一般病床が約60%、療養病床が約26%、精神病床が約15%。
- 90歳以上では一般病床が約50%、療養病床が約41%、精神病床が約9%。
- 療養病床の占める割合は高齢になるほど大きい。



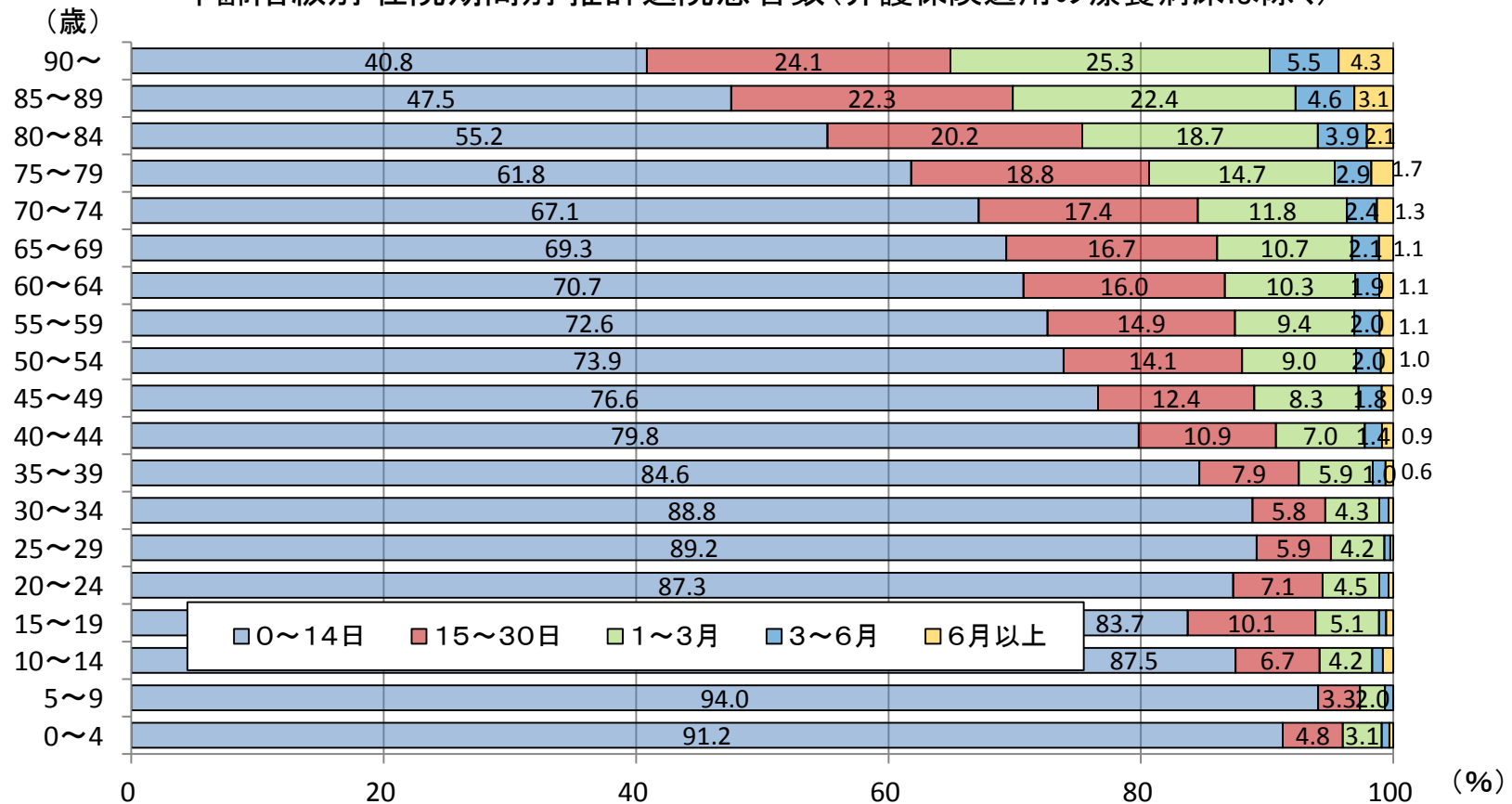
※ 平成26年患者調査(厚生労働省)により作成。

※ 病院、一般診療所の合計。介護保険適用の療養病床は除いた。その他(*)とは感染症病床、結核病床のことである。

年齢階級別、退院患者の在院期間別分布について

- 年齢階級別の退院患者の在院日数をみると高齢になるほど在院日数は長い。
- 90歳以上では退院患者のうち1ヶ月以上在院の割合が約35%を占める。
- 40歳代前半までの年齢階級では在院日数が14日以下の割合が8～9割を占める。

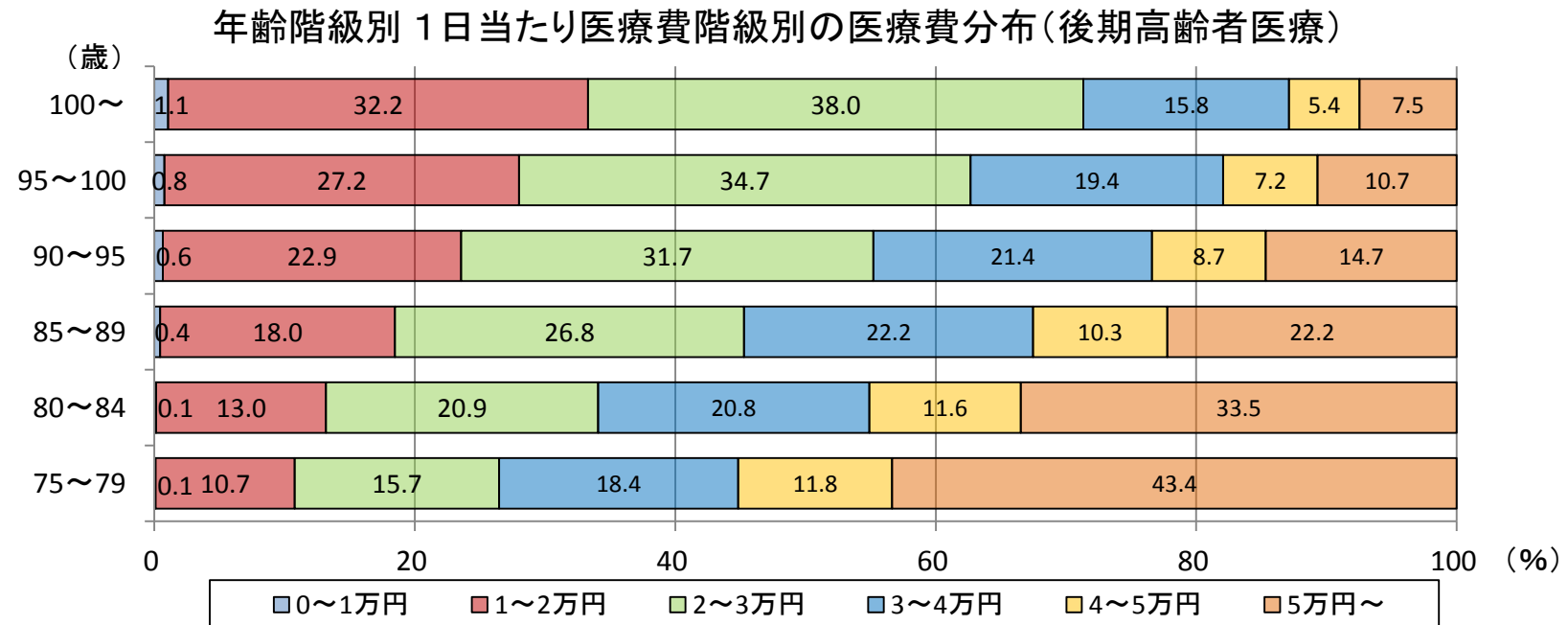
年齢階級別 在院期間別 推計退院患者数(介護保険適用の療養病床は除く)



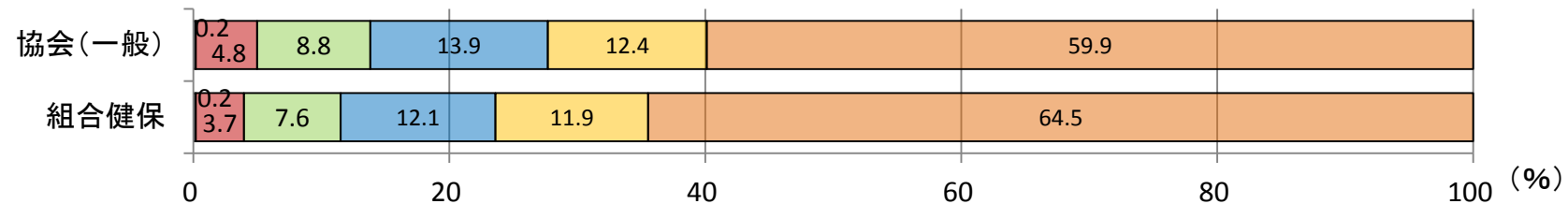
※ 平成26年患者調査(厚生労働省)により作成。平成26年9月1日~30日に退院した者が対象。
 ※ 介護保険適用の療養病床に係る分は除いている。

後期高齢者医療の1日当たり医療費別の医療費分布について

- 後期高齢者医療について年齢階級別に1日当たり医療費(入院+食事)別の医療費分布をみると、高齢になるほど1日当たり医療費の低いものの割合が大きくなる。
- 1日当たり医療費が3万円未満の割合(総医療費に占める割合)は、75~79歳では3割弱であるのに対して、100歳以上では7割強を占めている。



【参考】



※ 平成26年度医療給付実態調査(厚生労働省)の特別集計により作成。

※ 医科入院について、患者単位で1日当たり医療費(入院+食事+生活療養)階級別の医療費(平成27年3月診療分)の分布を集計したもの。